

= 情報化への対応と諸課題 =

富士宮市立北山中学校 内田 卓雄

1 はじめに

- (1) 今、進行しつつある変化の意味 現実を読む
パソコンの整備計画 インターネットの敷設 新学習指導要領
- (2) 教員にとっての情報教育
学校（授業等）での情報 = 学習内容
狭義の情報教育 広義の情報教育

2 社会の変化と情報化への対応

- (1) 第15期中教審第1次答申における21世紀の展望 ; 社会の変化の視点
= 科学技術の創造、新しいフロンティアを開拓 =
 - ・ 国際化の進展（相互依存と国際的な摩擦や競争）
 - ・ 情報化の進展（マルチメディア、情報通信ネットワーク、双方向）
 - ・ 科学技術の発展
（分子レベルでの生命研究、原子レベルでの物質研究、宇宙の成り立ち研究など）
 - ・ 地球環境問題、エネルギー問題、高齢化や少子化、男女共同参画社会
変化の激しい、先行き不透明な、厳しい時代
たとえ時代がどのように変化しようとも・・・「生きる力」
- (2) 高度情報通信社会での学校教育
高度情報通信社会の特質
 - ・ 不特定多数の者が、双方向に文字・音声・画像等の情報を融合して交換することを可能
e-mail、chat、携帯電話、hp情報の特質；増殖性と生産性 創造と拡大、真実性と虚偽性
学校教育への影響
 - ・ 情報の膨大さと多様性；学校を凌駕、興味関心の個別化と多様化
 - ・ 学習空間の広がり 学校・家庭・地域の連携 学校のパラダイムの転換
 - ・ 必要な力；情報の主体的な取捨選択能力と発信能力
 - ・ 授業改善；個別的学习への対応が可能
 - ・ 知的空間の広がり；学校間、学校外の機関との連携の必然性と可能性
 - ・ 情報化社会の光と影育てるべき能力と新しい学校像
 - ・ 情報リテラシー（情報活用能力）の基礎的な資質や能力
 - ・ 学校自体を高度情報通信社会に対応する「新しい学校」に

3 教育課程における情報教育

- (1) 現行教育課程における情報教育（読み書き算＋情報活用能力）
平成3年7月「情報教育に関する手引」（文部省） 情報活用能力の内容
 - 1 情報の判断，選択，整理，処理能力及び新たな情報の創造，伝達能力
 - 2 情報化社会の特質，情報化の社会や人間に対する影響の理解
 - 3 情報の重要性の認識，情報に対する責任感
 - 4 情報科学の基礎及び情報手段（特にコンピュータ）の特徴の理解，基本的な操作能力の習得情報教育の時系列
 - ・ 小学校段階；教具としての教育機器の活用
コンピュータ等に触れ、慣れ親しませる
 - ・ 中学校段階；技術家庭科の選択領域「情報基礎」の設置

- 社会科・数学・理科・家庭科等で関連内容
 ・高等学校段階；数学、理科、家庭科等にコンピュータ等に関する内容
 学習指導要領で；総則及び各教科・科目の指導計画作成上の配慮事項
 教育機器などの適切な活用

4 教育課程審議会における課題及び問題点

資料別添

- (1) 「情報活用能力」に対する基本的な考え方の未定着
- (2) 「選択的扱い」、「必要に応じて」の弊害
 - ア、学校差
 - イ、情報基礎履修率 94 % 第3学年履修 83%の問題

5 新教育課程における情報教育の骨格

- (1) 平成10年8月「情報化の進展に対応した教育環境の実現に向けて」
 - 情報教育の目標
 「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」
 - 情報教育の時系列
 小学校段階；主として「情報活用の実践力」の育成
 「総合的な学習の時間」を積極的に活用
 情報機器の基本操作を集中的に指導
 情報手段を活用した表現・コミュニケーション活動や課題解決活動
 - 中学校段階 「情報の科学的な理解」及び「情報社会に参画する態度」
 技術・家庭科の「情報基礎」を必修。他の教科，選択教科の時間
 技術・家庭科に発展的な選択領域を設置する。
 - 高等学校段階
 教科「情報」を新設（科目を複数設定，「情報の科学的な理解」及び「情報社会に参画する態度」に関する基礎的な科目）

6 情報化に対応した教育の実践上の課題

- (1) 「慣れ親しむ」から情報教育の体系化へ
 - ア、情報活用能力の理解と育成の計画化（指導体系、評価）；「情報」の位置づけ
 - イ、中学校の課題；技術科を核ということ
 - ウ、学校の教育課程編成力；育てたい力の明確化
- (2) 情報教育と授業におけるコンピュータ活用；情報活用の実践力
 - ア、パソコンの特質と授業創造にかかる課題
 - ・ パーソナル ・双方向 ・ネットワーク
 - ・ 教える教師、いらいらする生徒
 - ・ コンピュータの収まり具合
 - イ、問題解決学習の浸透度 授業で育てる力の明確化（内容知、方法知、自分知）
 - ・ 学びのツールとしての位置づけ
 - ・ 選択社会 コソボの調べ学習 hp の弊害
 - ・ 情報分析力
 - ・ リアリティと必然性のある教材 獲得していく教材 ema-il hp
 - ウ、教師の補完としてコンピュータ
 - ・ ドリル学習における一事例
 - エ、ネットワークの活用、可能性
 - ・ 学習の双方向 主体的な学習
 - ・ ホームページの立ち上げと可能性
- (3) インテリジェント化に伴う課題
 - ア、学校でのコンピュータ活用の特質 情報の共有化と個別化
 - イ、ネットワーク技術の未成熟 LAN対応
 - ウ、新しい学校観 情報センターとしての図書室 コンピュータ室